

大会宣言（案）

本日、私たちJR東日本労働組合長野地方本部は「JA長野県ビル」において、結成から10年の節目となる「第12回定期大会」を開催した。2023年度の運動方針を確立し、全組合員で組織強化・拡大、さらなる飛躍と成長を目指すための方針を満場一致確認した。

経営側は「変革2027」の下、収益拡大やコストダウンを積極的に進めるために職場や働き方、業務などの構造改革を推し進めている。業務量の増加やジョブローテーションによる担務変更、兼務、兼駅、遠距離通勤など、社員一人ひとりの負担は今まで以上に増加している。あるメディアによる「従業員の不満投稿が多いブラック企業ランキング」でJR東日本がトップとなった。近年の離職率にも表れているように、社員が何も意見を言えない、働きにくい職場環境になってしまっている。私たちは労働組合として「安全・健康・ゆとり・働きがい」を求めて労働条件や職場環境、各種制度を検証し、経営側に団体交渉を通じて改善を求めていく。

ここ最近の物価高騰により私たちJR労働者の生活は苦しさが増すばかりである。政府の対策が予定通り9月末に終われば、物価上昇は加速する可能性がある。2023春闘では「定期昇給の完全実施」とベースアップ、2021春闘で削られた「2係数相当分」を取り戻すべく、各支部・分会で集会や臨時事務所の開催、組合員が積極的に組合未加入者等の声を集め、会社全体の組合加入者数が約2割と言われているなかでも、組合員が集めた多くの声が団体交渉の力となって会社と交渉し「2係数相当分」を取り戻すことができた。一方、職制ごとに格差をつけたベースアップ回答は等しく奮闘しているJR労働者を選別する行為であり、決して認める訳にはいかない。福利厚生も30年以上通勤手当など変わっていない一方、突然社宅の廃止を打ち出して社員を困惑させるなど、状況が悪くなる一方である。賃金や福利厚生など、これからもJR労働者が平等かつ公平に報われ、定年退職まで安心して働くことができる会社にしていくため、全組合員でJR労働者の力の結集に挑戦していく。

私たちが目指すのは長野地本のさらなる組織の強化と拡大である。様々な意見を出し合い、今後の新たな長野地本を創造するために、全組合員で労働運動の質をさらに高め、団結を強化していこう！

以上、宣言する。

2023年8月25日
JR東日本労働組合
長野地方本部
第12回定期大会